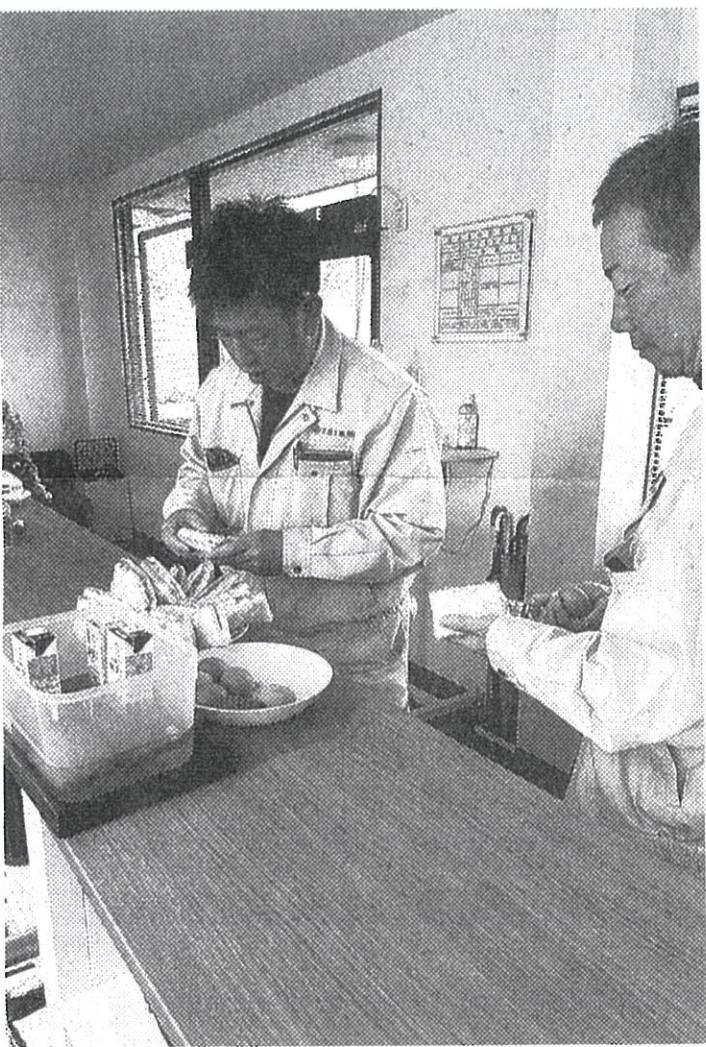


従業員の健康維持・増進に取り組む「健康経営」が県内で浸透してきた。人手不足、従業員の高齢化、メンタルヘルス不調者の増加に伴い、従業員の健康が生産性向上や持続的な成長に不可欠な要素になっているためだ。健康経営の推進は、従業員の健康を守る「ホワイト企業」としてイメージアップにもつながり、採用面でもプラス効果が期待される。健康経営に力を入れる県内企業を紹介する。

朝食の無料提供

公共土木工事を手掛ける天元工業（てんげんこうぎょう、本社桑名市長島町松蔭1-10、加藤航社長）は、従業員に対して朝食を無料で毎日提供している。体が資本の土木工事業従業員の健康を気遣う加藤ゆかり専務が7年程前から継続して取り組む福利厚生だ。

朝食で必ず用意するのはゆで卵と飲み物。飲み物は牛乳、青汁、トマトジュース、無調整豆乳など4種類程度が用意され、自由に選ぶことができる。従業員は毎朝本社へ出勤した際、朝食を取つてから現場に出向くのを日課としている。時には、サンドイッチや煮物、五目ごはんなどを提供するほか、夜食を用意することもある。年末の最終日には、加藤専務お手製のお雑煮飯を皆で食べる習慣もある。正月明けの鏡開きには、食事提供を始めた当初は、バナナと牛乳が定番メニューだった。ただ、効果的な栄養摂取の観点や従業員の



用意された朝食を選ぶ従業員
(天元工業)

意見を参考にしながら、メニューの種類を変えてきた。

このほか、健康経営に資するさまざまな福利厚生を行つてている。健康検査では、脳ドックやピロリ菌検査、歯周病などを診察する口腔（こうくう）検査などがあり、いずれも費用を会社側が全額負担する。本社にはフィットネス器具を常設し、運動不足の解消に役立てている。

若手社員が多い同社。こうした取り組みは若いうちから自分自身の健康管理に責任を持つ意識付けには効果的だ。加藤専務は「社員の健康維持に役立つ取り組みを継続していく」と話している。

企業対抗運動会へ参加

● 橋りよう部品の製造や木造・鉄骨建築の新築・改築の設計から施工までを手掛ける佐野テック（本社三重県菰野町千草5005-1の9、佐野貴代社長）は、2017年から8年連続で「健康経営優良法人」に選ばれている。



企業対抗運動会で行われた大縄の様子
(佐野テック)

生産性向上、持続的成长に効果

● 企業対抗運動会では、佐野テック側が新たなレク活動で運動系の企画を自前で検討していたなか、稲垣鉄工からのオファーを受けて快諾。社員たちは運動会本番に向けて事前に体力づくりを進めるなど、健康意識を高めるきっかけになった。

● ATO会を介するコミュニケーション活性化は、良好なチームワークの醸成が、日頃の業務面にプラス働くだけでなく、社員自身のメンタルケアの観点でも大切な役割を果たしている。

● 参加企業は、佐野テックのほか、建築鉄骨製造の稻垣鉄工（本社四日市市）と、洗車機製造などを手掛けているヒラマツ（本社津市）の3社。佐野テックからは、社内交流組織の「ATO（アト）会」から約30人の社員とその家族の合わせて約50人が参加した。風船を割る競技やリレー、大縄などの競技が行われ、社員や佐野社長ら経営層も汗を流した。

● ATO会は、社員同士の親睦を深めることを目的に主にレクリエーション活動の企画や運営を行う社内組織。

新型コロナの影響で一時活動を

中断していたが23年から本格的に再

開した。